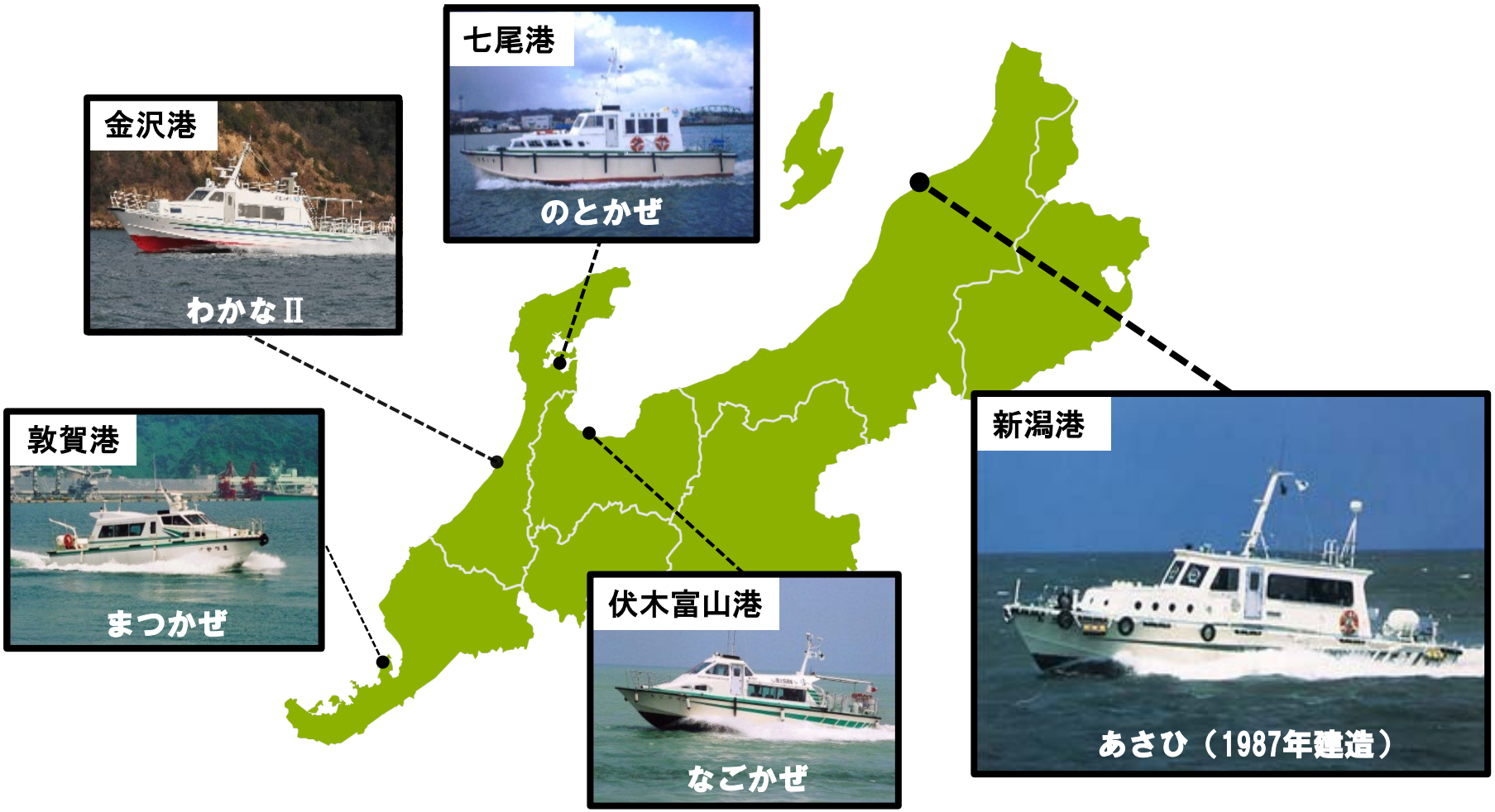
新潟港港湾業務艇「あさひ」の建造について

北陸地方整備局
新潟港湾空港技術調査事務所
環境課　河崎　光紫

1．はじめに

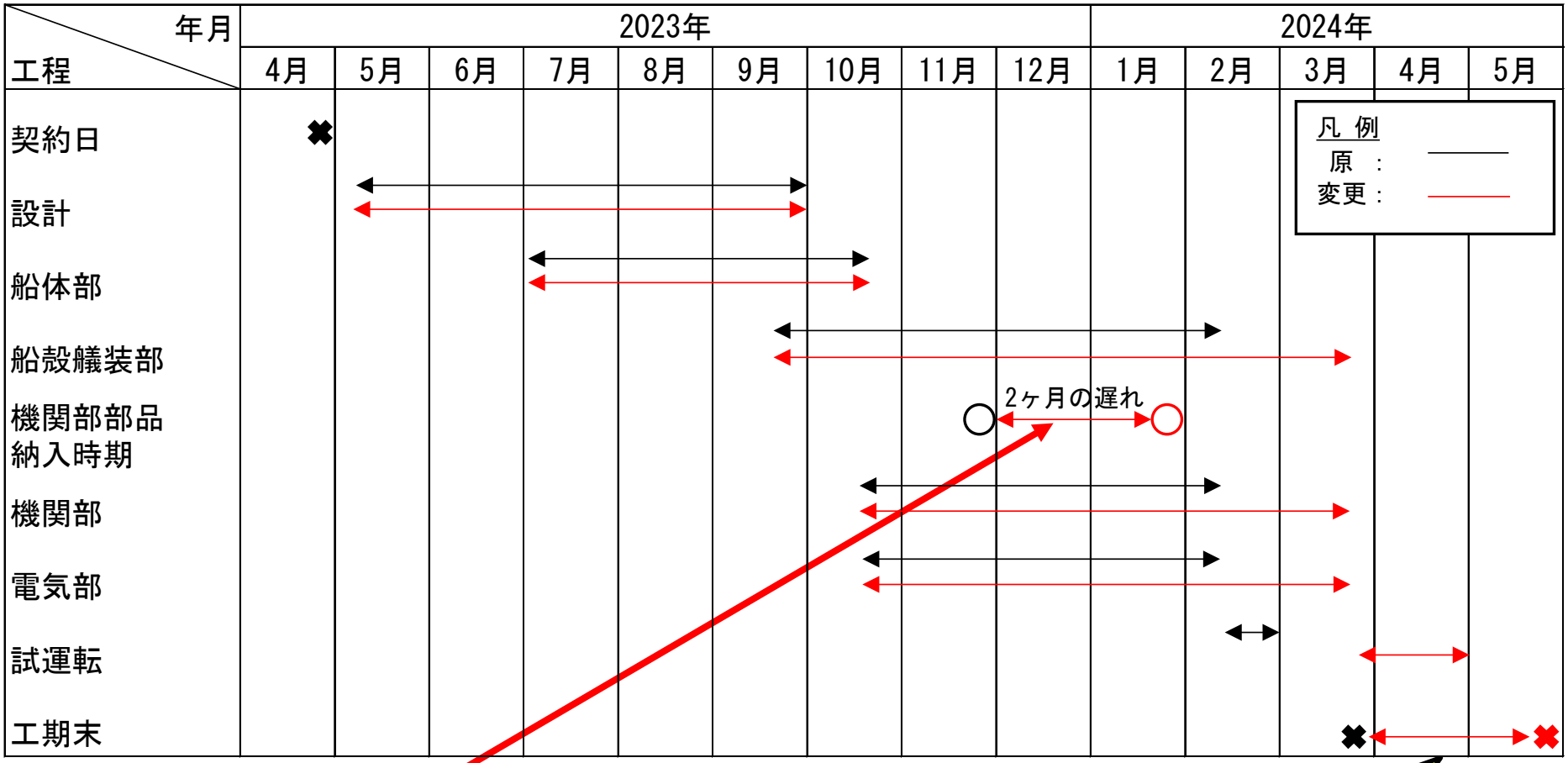
港湾業務艇: 港湾整備事業等に伴う工事監督・検査、測量・調査及び災害発生時における緊急輸送活動等の支援活動を行う船舶



2. 新造船の建造について

国土交通省

○建造工程表について



新型コロナウイルス感染拡大の長期化及びウクライナ情勢の影響による世界的な半導体不足により、約2ヶ月の遅れ

約2ヶ月の工期延伸

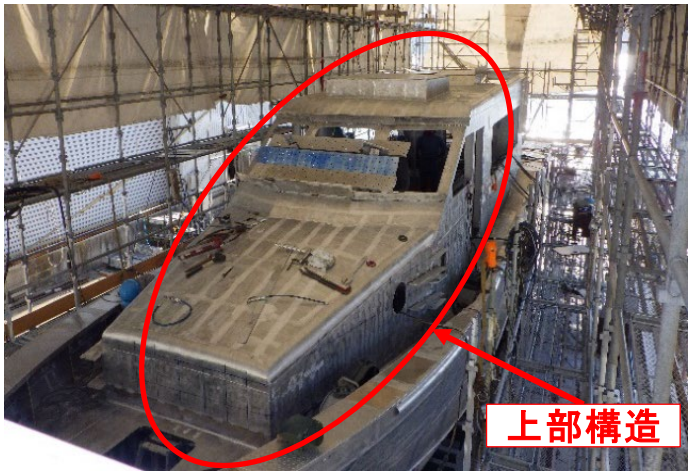
2. 新造船の建造について

○新造船建造の流れ

①骨組みの製作

③反転作業

②外板取付



④上部構造の搭載

2. 新造船の建造について

○新造船建造の流れ

⑤艤装品取付

⑦電気配線・内装工事

⑥機関・発電機取付

⑧塗装

2. 新造船の建造について

○進水式の様子

「あさひ」に命名

神主によるお祓い

進水作業の様子

2. 新造船の建造について

既存船の船尾甲板

荷役スペース拡大

ベンチ取外後

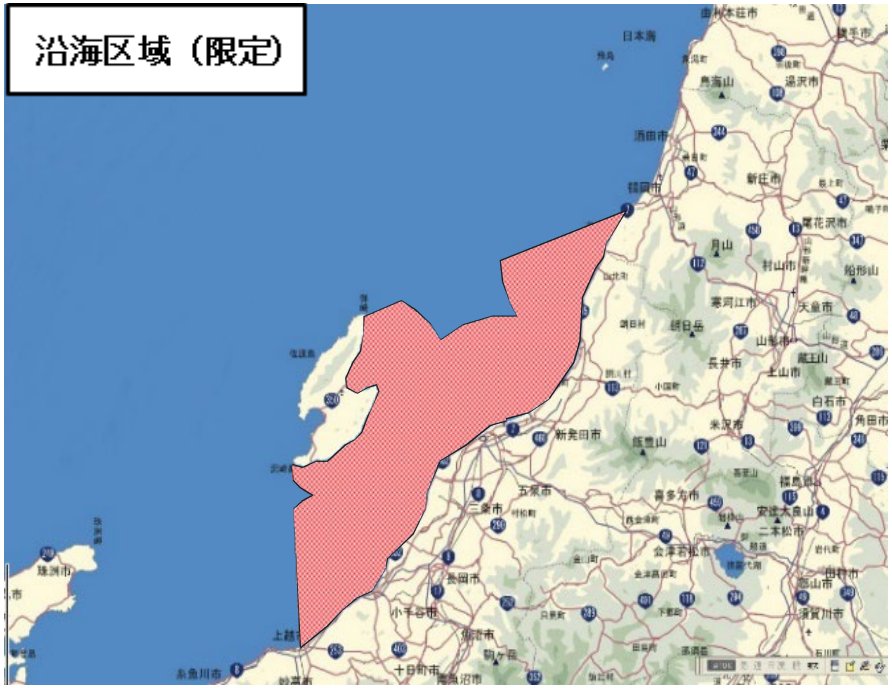
新造船の船尾甲板

災害支援物資等の荷役効率向上

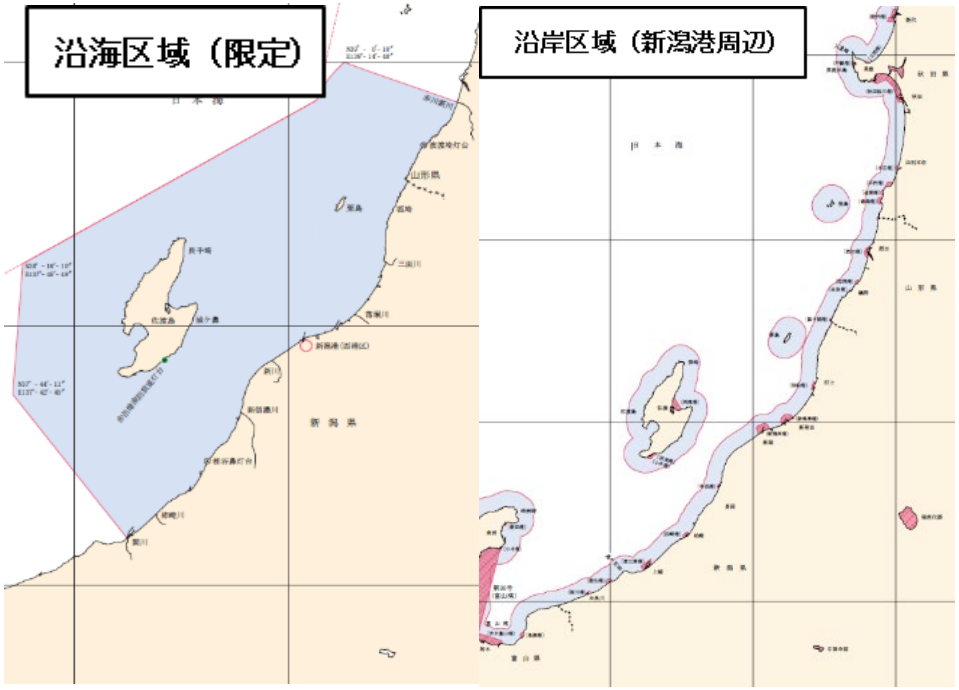
2. 新造船の建造について

国土交通省

既存船の航行区域



新造船の航行区域



沿海区域（限定）

・海岸から20海里（約37km）以内の最強速力で2時間以内に往復ができる範囲の水域

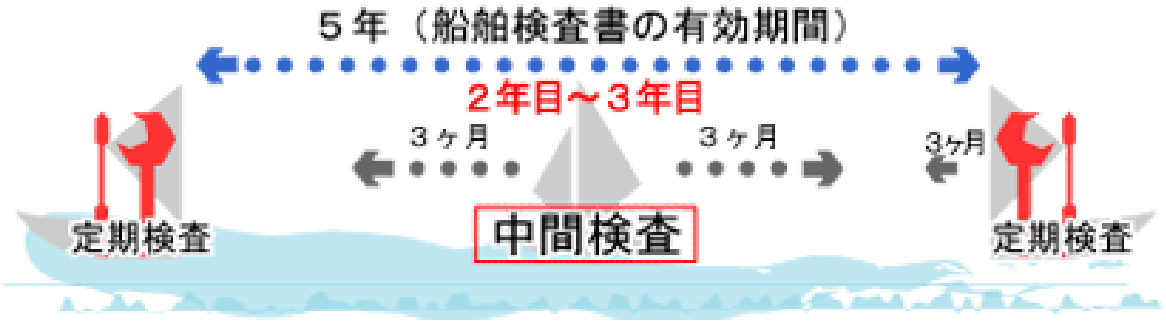
沿岸区域

・日本全国の海岸から5海里（約9km）以内の水域であり小型船のみ設定されている水域

2. 新造船の建造について

国土交通省

大型船（JG船）

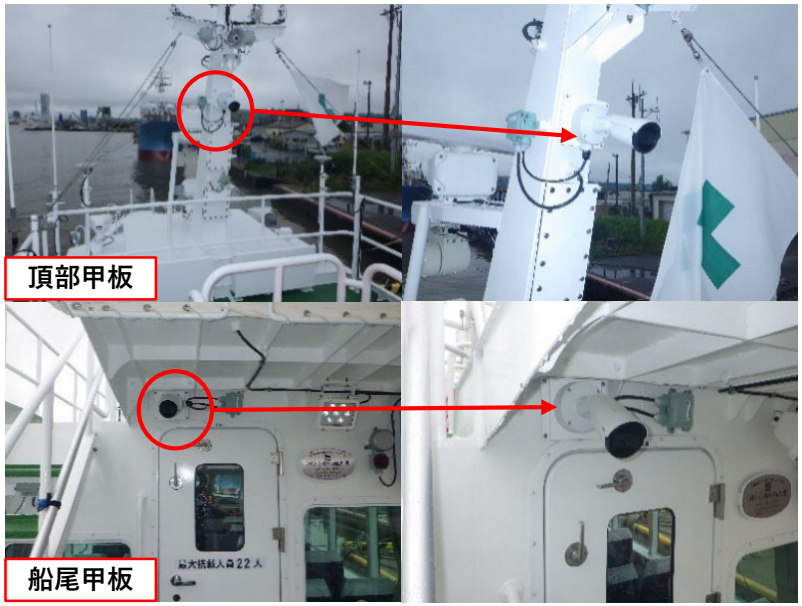


総トン数20t以上→大型船
総トン数20t未満→小型船

小型船（JCI船）

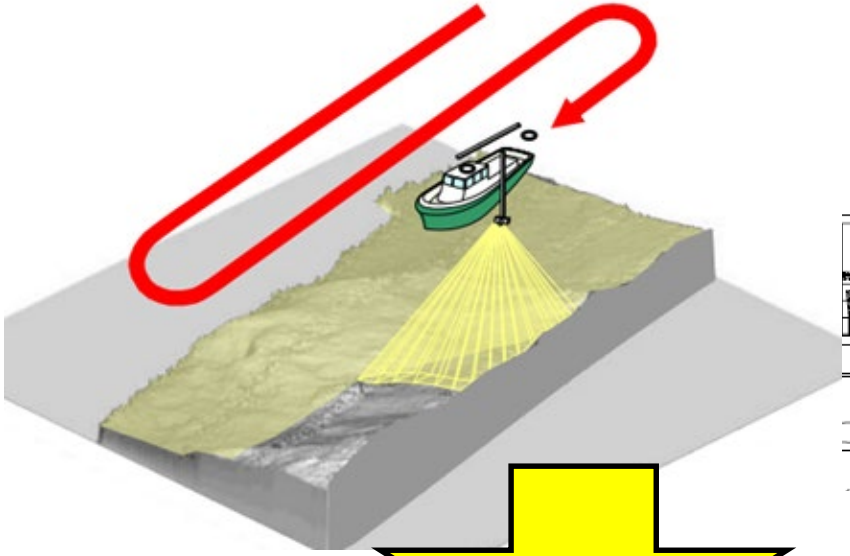
ランニングコストを削減することができる

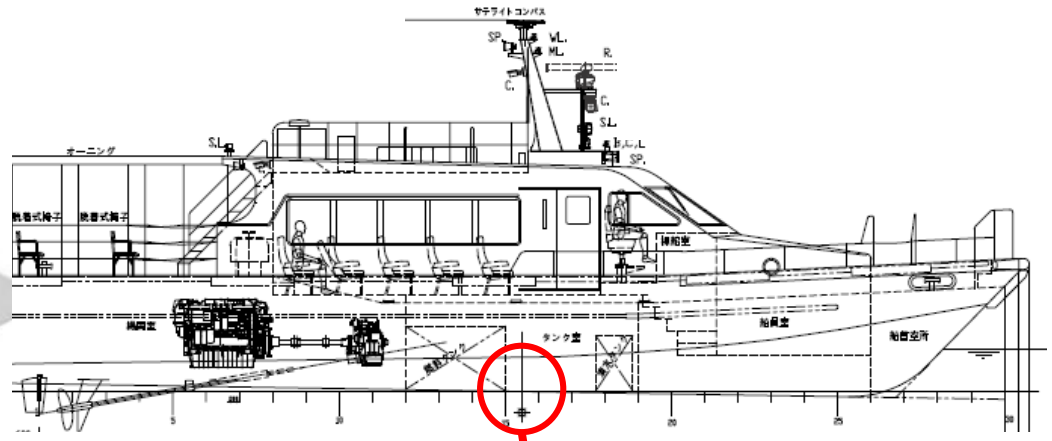
3. 新たに搭載された機能について



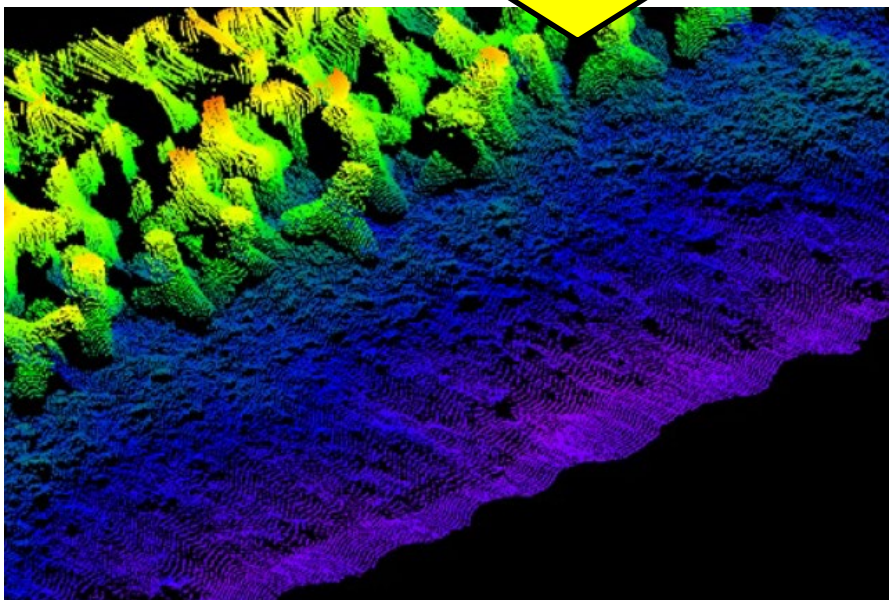
3台のカメラを同時に見ることができる

3．新たに搭載された機能について





測量後のデータ



4. おわりに

・小型船で建造することで、より広い航行が可能となる航行区域を取得し、また、より長い間隔で定期検査を受験することでランニングコストを削減した。

・今回建造した港湾業務艇「あさひ」は、マルチビーム音響測深機や監視カメラといった既存船には搭載されていない機能を新たに搭載した。

・今後、港湾整備事業における工事監督・検査及び測量・調査といった通常業務で活用されるが、大規模災害発生時には迅速な被害状況の把握や緊急輸送活動での活用が期待される。

ご清聴ありがとうございました

新造船　あさひ